

## 第23回日本水大賞 応募用紙

(整理番号： )

活動の名称	アグロフォレストリーニヨルミズジュンカンノサイセイトノウソンカイハツ アグロフォレストリーによる水循環の再生と農村開発									
記入年月日	活動主体					活動分野				
2020年9月10日	該当する活動主体に○ (1つまで)					主な活動分野に◎ (1つまで) その他関連する活動分野に○				
	学校 ( )	企業 ( )	団体 (○)	個人 ( )	行政 ( )	水防災 ( )	水資源 ( )	水環境 (○)	水文化 ( )	復興 ( )
活動主体の概要										
活動主体 の名称 (個人応募の 場合は個人名)	フリガナ トクテイヒエイリカツドウホウジン シャンティヤマグチ 特定非営利活動法人 シャンティ山口									
	代表者名 (団体の場合)	スミ ナオヒコ 角 直彦			設立年月日	1993年3月20日				
所在地	ヤマグチ 山口		ケン 都・道 府・県		シュウナン 周南		シ 市・区 郡		オオアザシモカミ 大字下上 区・町 村	
主な活動地	タイ王国・北タイ地域									
組織の概要 (個人の場合は 履歴を記入)	代表理事(1)―理事(7)―監事(2) 事務局長(1)―事務局長補佐(1) 会員[一般会員(228)・学生会員(10)・団体会員(2)]									
応募活動の概要：(文字サイズ10.5pt～、300文字以内で記入して下さい) ラオス内戦で難民となってタイ国内山岳部に逃れ生活苦をよぎなくされ崩壊寸前の貧困の各村を対象として、これまでと異なる新しい農業手法で住民の自立を促し持続可能で希望の持てる生活を目標に農村開発を展開しています。これまで広範囲にわたる森林伐採で遺伝子組み換えトウモロコシ栽培を行った結果2～3年後から次第に収穫は減り農薬散布による健康障害が続出し始めるとともに水源の枯渇・飲料水への農薬の混入・洪水の頻発などの弊害が拡大し始めました。活動地域の北タイ一帯の山岳地では、こぞって森林伐採によるトウモロコシ栽培が年々拡大しています。トウモロコシから果樹に転換することで森林の再生を通して水環境の改善・弊害の解消と併行して地域の保健所・病院など行政との協働連携により安心安全な生活と地域環境づくりを目指し活動しています。										
応募活動のアピールポイント：(文字サイズ10.5pt～、箇条書き100文字以内で記入して下さい) 1、人の痛み、苦難を自分自身に関わりのある問題として受け止め行動していくこと。2、支援は、絆づくり・人材育成。3、心豊かな生活、安心・安全な、地域環境づくりは、コミュニティと協働。4、発生源で元を絶つ(何事も拡大で気づきすでに手におえない事態に陥る)										
これまでの受賞歴：・2005年「第6回アジア貢献賞」公益財団法人 西日本国際財団 ・2013年「第16回地球倫理推進賞」「文部科学大臣賞」社団法人 倫理研究所 ・2014年「優れた取り組み賞」特定非営利活動法人 日本水フォーラム・2015年「地域連携優秀賞」タイ国・パヤオ県知事 ・2017年「第6回毎日地球未来賞」毎日新聞社・2017年「平成28年度国際居住年記念賞」社団法人 日本住宅協会 ・2020年「第21回アジア貢献賞」公益財団法人 西日本国際財団										
※日本水大賞における これまでの応募実績：第 ( 0 ) 回、 受賞歴：第 ( ) 回 ( ) 賞										
「日本水大賞」をどこで知りましたか？(数字に○印を付けて下さい) 1. 新聞広告 2. 官庁内ポスター ③. 日本河川協会ホームページ 4. 水大賞事務局からの案内 5. 国の機関からの誘い 6. 県・市町村からの誘い 7. 教育関係機関 8. 日本河川協会ホームページ以外のインターネットの情報 9. その他 ( )										

(整理番号： )

## 活動の概要

目的：(文字サイズ10.5pt～で記入して下さい)

**エコトイレ普及開発事業:**当初定住先の村の共同トイレは、穴を掘って板をかけただけで屋根はなく竹などで目隠しをし、し尿は地下浸透していました。村長に聞くと3、4年前当時伝染病が蔓延し多くの老人や幼児が亡くなり生き残った数名の子供は、脳性麻痺で苦難な生活をしている5、6歳の数名の子供がいました。村の井戸の水質調査をした結果全部大腸菌で汚染されていました。直ちに煮沸して飲むよう指導しました。伝染病の経路が判明し、し尿処理の方法の改善と地下水汚染の防止と安全な飲料水確保に加え地域の保健所と共同で保健衛生セミナーと安全なトイレの研究開発と設置事業を開始しました。

**森林再生事業:**山岳部のトイレ事業を実施していた際、スコールによる河川の短時間の異常上昇、下流の氾濫による橋の崩壊などに数年に渡り遭遇しました。異常洪水の原因は、樹木の伐採とトウモロコシ栽培での枯葉剤散布で草木も生えない状況がスコールをとどめることなく畑の土を巻き込んで一気に流下して異常を来していることが判明しました、このほかトウモロコシ栽培による弊害として農薬散布による健康障害・飲料水の枯渇・飲料水への農薬の混入・畑土の流失・洪水による水質汚濁等様々な問題が生じていました。そこでトウモロコシから果樹への転換を住民会議で提案し全員一致で合議し、事業を開始しました。

内容：(文字サイズ10.5pt～で記入して下さい)

**エコトイレ普及開発事業:**民族の村落を対象に、これまで河川に排水していた糞尿を活用したエコトイレシステムの普及開発を2005年から着手し、緊急的に必要とした84基を設置、施工は、全て現地の利用者が携わり作る過程では、住民達のコミュニティーや学習意欲達成感に加え、愛着と清潔の持続を習慣づける指導など継承しています。これがタイ王国保健省の基本的推奨モデルとして地域の保健所を通じ全土に普及中です。・システムは、電気不要・汲み取り不要・ガス収集(燃料として使用)・臭気なし・浄化排水は、畑の肥料・残留水は、飲料可能(雑用水に使用)設置は、村民全員の協働作業で市販の資材で容易にでき低コストで衛生的で、環境に優れた維持管理もいらないため重宝されています。また安全な飲料水の確保もできました。これまで学習の機会がなかったことから、安心安全の生活を目指した健康管理にとっても期待しています。保健衛生・健康管理等の身近な知識の向上のため定期的に地域巡回医療と共に地域と協働連携し、検診・治療・健康相談や生活環境セミナーを行っています。

**森林再生事業:**ホイプム村での着手当初は、46世帯(271人)で過疎が著しく村の崩壊寸前のところ住民の団結とコミュニティーが希望をもたらし果樹への転換支援完了の2015年時点では、64世帯(375人)と増加し若者の定着による子どもの増加が継続しています。植栽から収穫まで5年～7年要しますが、収穫を迎えると定期的に収入も増加し地産地消で安定した生活が確保できます。転換当初のホイプム村では、すでに収穫から4年目を経過し収入も向上しこれまで海外(イスラエル・韓国・台湾)への出稼ぎ者40世帯あったがほぼ0世帯となっています。平成27年度から「緑の募金」国際緑化公募事業に着手し、持続可能な森林農業と共に荒廃した大地を緑豊かな農地にすることにより森林を再生する。(第一期事業、平成27年度～29年度ホイドウア村)・第2期事業、令和元年度～継続中ナムカー村)地域のモデルとして波及効果も大きく、これまで遺伝子組み換えトウモロコシ栽培の弊害による水源の枯渇、洪水の頻発、農薬による健康障害から回避し安全な飲料水を伴う水源の確保を求めて地域の村は、こぞって果樹への転換が急がれていますが、転換への果樹苗木の投資も必要なため資金確保に苦慮しながら事業を継続している状況です。

活動期間 自 2005 年 4 月 ～ 至 2020 年 3 月 (通算 15 年 ヶ月)

上記の期間以前から一部の活動を実施していた場合はその期間と内容を下に記入して下さい。

1993年4月～現在 山岳少数民族自立支援活動(通算 27年)

- ・民族の自立のための支援事業(女性自立支援・伝統文化継承・高齢者福祉・生活改善・保健衛生・農業改善・環境保全。)
- ・シャンティ学生寮運営事業(北タイ地域の山岳民族の子供たちが中学・高校に就学するための奨学金を支給し、寮生活で学習するため設立運営。)
- ・保育所事業(地域の各保育所の行事等の協力や、絵本・学用品の支給、絵本の読み聞かせ指導、保健衛生指導、施設の設置、補修等。)
- ・スタディーツアー・フィールドワーク交流事業(支援先の学生・村人を日本に招聘し日本の皆さんとの交流事業の実施、日本の大学生を対象としたタイの大学生との学習会及び活動先の村とのホームステイ体験交流の実施)

(整理番号： )

**活動の必要性・緊急性：**（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）  
 近年において【これまで経験したことのない】豪雨・暴風がそのたびに記録を更新し日本はもとより世界各地で膨大な災害が後を絶ちません。数十年前から地球温暖化の原因は人間生活における廃棄物や温暖化効果ガスによるものと叫ばれ全世界規模で広報活動やキャンペーンが実施され学習での知識は浸透してきた昨今、SDGsキャンペーンのさなかこれが対策の実践活動は、遅ればせながらようやく始まりつつあります。実践活動に全世界を挙げて実施しなければ子どもや孫、ひ孫の時代の地球環境は最悪となり生物が住めなくなる危機をはらんでいます。今から皆で取り組むことで少しでも環境破壊の進行を緩和できると信じ環境修復に取り組むことが必要です。特に途上国においては、大規模の災害や食糧生産などの開発行為により広大な森林が失われています。森林がなくなると命の水が乏しくなり生活不能に陥ります。破壊した森林の修復、保全は緊急に着手すべき事項です。

**活動の効果・社会への波及効果：**（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）  
 住民の協働努力の結果として村に希望が見え始め崩壊寸前の時期47世帯から3年を経過するころからバンコク等からの出稼ぎユーターンや成人の若者がこの地で農業の後継者となって今では、67世帯となり、増えた世帯は、若い夫婦のため子供も増え、今後も人口は、大幅に増加すると推測されます。(2012年6月NHK WORLD RADIO世界17カ国語で放送されました。(第1回目の反響が大きくその後の状況の変化を交え第2回放送されました。)地球温暖化防止・環境保全の実績として2010年4月より「遺伝子組み換えトウモロコシ栽培」で荒廃した農地を森林に甦らせる為の「地球環境基金」、「緑の募金」助成事業による果樹苗の配分に併行して果樹への転換指導と地域3村の農村開発に取り組みました。10年を経過した今、4年前から本格的な果樹の出荷で生計をすみだし、かつては、危険なリスクを背負いイスラエルや韓国などに出稼ぎ家族と別居が続いていましたが今では、出稼ぎ者もなく地産地消の果樹農家の村としてようやく安定の兆しが見え始めました。当初モデル村と位置付け波及効果を意識して活動していたため近隣の村への効果も大きく農業センターでのセミナー受講者による指導者も育ち各村で指導者として携わっています。今後も近隣の村に移行し継続を予定しています。

**活動を実施する上での留意点、工夫された点、苦勞された点：**（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）  
 当団体は、組織・人材的にも小規模のため活動の手法は、「身の丈に合った」継続的活動と位置づけ団体結成以来組織の職員・役員の人件費・報酬は、無支給ですべてボランティアとして管理運営しています。助成金事業においては、大規模の予算事業は叶わないもの、住民ニーズに見合った案件を選択しチャンスを得た事業をベースに、活動の過程で工夫を加え事業展開しています。ほとんどの場合、事業の事前学習を繰り返し住民全員参加理解のもとで参加協働し、困難なことでも極力外部には頼らず住民と問題解決に取り組めます。参加の過程でコミュニティーづくりを重点に協働しています。「できばえ」より、学習の楽しさ、達成感、自信に繋がる手法で実践に参加するようにしています。助成事業の100パーセント達成は、当然のことながら、事業で学んだ住民全員の自立心、将来の夢や希望など数値に表せない実績を成果として評価します。事業開始の際は、当該村に現地事務所を開設し常時スタッフを置き住民と共に生活することで村の問題点、住民の課題が確認できると共に、住民・地域行政との信頼関係を築くことで事業展開や課題解決への糸口が見えてくるなど目的をより推進できます。また、住民アンケートなど真のデータが聴取でき住民とのきめ細かな協働プロジェクトが達成できます。事業の有無にかかわらず平素から障害者、子ども、お年寄りとの対話を密にして日常的にかかわり特に祭事や伝統文化には、積極的にお手伝いなど参加しています。このような関係を築くことにより自立と共に現地行政の責任ある自立も促進するものです。)信頼度も高まり絆が生まれ、より良い関係が継続育成するとともにリーダーも育ってきます。住民に身近な末端行政(村・社会教育所・保健所・保育所・幼稚園・小学校・役場・地区の病院・森林局・国境警備隊)との密接な協働連携の下で地域に寄り添った事業の進行を行い、事業終了時期には、住民の必要なものについて関係行政に引き継ぎ継続実施を行っています。(住民の自立と共に現地行政の責任ある自立も促進するものです。)

**活動の今後の計画：**（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）  
 これまで培った実績から常に地域のモデルとして波及効果を意識して進行し地域のリーダーづくりを主眼として特に地域行政との連携した事業進捗を図り民族の自立と行政への引継ぎを目標とした事業展開を行っていきます。

**応募推薦者（必要な場合にご記入下さい）**

氏名		推薦の言葉：
所属		
氏名		推薦の言葉：
所属		